

4 指導案例

「相かきつぎをしよう」 (本時 6 / 13)

(1) 本時の目標

- ・製作の接合方法に関心を持ち、相かきつぎを取り入れた作業を進めることができる。

【関心・意欲・態度】

- ・のみやのこぎりを安全に用いて相かきつぎを取り入れた接合ができる。

【技能】

(2) 準備

- ・のみ、げんのう、さしがね、のこぎり、砥石、ワークシート

(3) 指導過程

段階	学習活動	教師の支援・留意点 ☆評価規準
つかむ	1 前時で習った作業をふり返る。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・さしがねを使ってけがきを行った。 ・のこぎりで板を切断した。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の作業を確認し、今日の目標を黒板に示す。 ・大事な語句や工具の名称が暗記できるように教科書やワークシートを用いる。
見通す	2 接合方法について考える。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・木ならくぎやねじを使っている。 ・接着剤を使うこともあるよ。 ・セロテープも接合じゃないかな。 ・何も使わずに重ねるだけのときもあるよ。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・班での話し合いは行うが、時間をかけず、友だちの発言からいろいろな接合の種類があることに気付くように助言する。 ・丈夫な作品に仕上げるためにさまざまな接合方法があることを考えさせる。 <p>☆適切な接合方法を考えることができたか。 (発言, ワークシート) 【関】</p>
確かめる	3 ほぞ接合 (相かきつぎ) を行う。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・けがきが難しいな。 ・どの部分をのみで打てばいいかな。 ・のこぎりで切る部分は少ないけど、慎重にまっすぐ切らなければならない。 ・刃の裏と表を間違えないようにしよう。 ・のみの力加減が難しいな。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の作業より、のこぎりの使い方は、簡潔に済みます。のみとげんのうの使い方については時間をかけて使い方を示す。 ・刃物を使用するので安全に留意して作業をするように伝える。 ・材料へのけがきが速やかにできるように黒板に作業図を示す。 ・作業の合間にのみの刃先が研げるように準備する。 <p>☆正しい工具の使い方ができているか。 (作業の様子) 【技】</p>
生かす	4 振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・接合方法が分からない生徒には、仮組立てを行い、確認しながら作業を進めるように伝える。 ・作業に消極的な生徒には、失敗をしても修正可能なことを伝え、積極的に取り組むように助言する。 ・授業の感想や分かったことなどを数人の生徒に発言させる。 ・失敗した生徒がいれば、次回以降に修正していくことを伝える。

(4) 評価

- ・班で協力し合い、接合方法に関心を持ち、相かきつぎを取り入れた作業を進めようとしているか、授業の様子や振り返りワークシートから判断する。
- ・のみやげんのうを使い、安全に留意しながら相かきつぎができたか、授業の様子や練習材料の結果から判断する。